

令和2年度 認知症初期集中支援推進事業活動報告について

1 認知症初期集中支援チーム

認知症になっても本人の意思が尊重され、できる限り住み慣れた地域のよい環境で暮らし続けるために、認知症の人やその家族に早期に関わる「認知症初期集中支援チーム」を配置し、早期診断・早期対応に向けた支援体制を構築することを目的とする。

2 チームの構成メンバー

- (1) 認知症サポート医
- (2) 支援チームで従事するために必要な研修（伝達講習）を受講した者：保健師、看護師理学療法士、作業療法士、社会福祉士、介護支援専門員等

3 活動内容（訪問、チーム員会議）

- (1) 認知症の対象者に関して包括的観察・評価に基づく初期集中支援を行うために訪問活動等を行う。初回訪問時は医療系職員と福祉系職員それぞれ1名で訪問し、本人の認知症症状の確認、専門的医療機関への受診や介護保険サービス利用の効果に関する説明により対象者やその家族の心理的サポートや助言を行う。
- (2) 訪問結果に基づき毎月1回、サポート医を含めチーム員会議を開催し対象者に対して適切な医療及び介護サービス利用等の勧奨・誘導、認知症の重症度に応じた助言、身体を整えるケア、生活環境の改善などの内容について検討する。

4 チーム員会議（R2.6月～R2.12月 ※コロナウィルス感染防止のため6月より開催）

回数	日時 (月曜日)	新規 件数	経過確 認件数	終了 件数	参加者			
					地域包 括支援 係	東御市 民病院	事業所	合計
1	6月15日	0	5	5	3	3		6
2	9月7日	2			3	2		5
3	10月19日		2		2	4		6
4	11月16日	1	2		3	3		6
5	12月14日	2	4	2	2	4	3	9
合計	5	5	13	7	13	16	3	32

※チーム員会議は必要に応じ他機関の参加あり（福祉関係事業所、民生委員等の地域関係者）

※9月、11月はサポート医欠席（文書により共有）

※経過確認件数は延べ件数

5 対象者の状況

	人数	年代			
		60	70	80	90
男性	3	0	1	2	0
女性	7	1	3	3	0
合計	10	1	4	5	0

6 把握ルート

家族	包括職員	民生児童委員	ケアマネ	近隣	通所介護施設
1	2	1	4	2	0

7 対応件数（延べ件数）

訪問	電話	医療連携	関係機関連携※
3	7	3	1

※関係機関：保健師等

8 課題

- ・認知症の初期段階であり本人の自覚がない、家族も年相応のもの忘れ程度の認識により認知症が進行してしまい、問題行動が起きるなど家族が本当に困ってからでないと地域包括支援センターへの相談や病院の受診、介護申請に至らないことが多い。
- ・介護申請をしたが介護保険サービスに繋がらず、ケアマネからの相談も多い。
- ・認知症の行動・心理症状に苦慮するケースが多い。

9 課題への対応

- ・家族に対して、認知症の症状や問題行動、医療機関の紹介や介護サービスなどを繰り返し説明することで、初期段階からの対応の必要性を説明する。
- ・介護サービスに繋がらなかった時の対応や様子確認の方法を検討。（地区担当、民生委員、近所等）
- ・市民に対して、認知症についての正しい理解を普及するため、各区の公民館で開催する脳いきいき教室や総合福祉センターで行う家族会、講演会等を通じて啓発活動を推進する。

10 周知

- ・市内へ事業の周知をする。（認知症の早期診断・早期対応に向けた支援、周辺症状の対応）
- ・介護申請後、担当ケアマネにお願いしたがサービスに繋がらず、苦慮している相談が多くなってきたため、チーム員会議への参加の呼びかけや、支援に対して考える機会となるようにしていく。